

# 東 海 書 道 藝 術 院

令和3年8月

<http://www.toshogei.jp/>

## 第68回公募東海書道藝術院展 展覧会・授賞式報告

第六十八回東書藝展は、令和三年四月六日(火)～十一日(日)、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー栄の両会場での同時開催がなかった。未だ続くコロナ禍の中、搬入から会期中、最終日の搬出まで、感染拡大防止に最大限の力を尽くしてトラブルは幸いにしてなし。入場者数は県美会場千三百三名、市民ギャラリー会場千二百二名と、それぞれ前回比136%、273%の増加で予想以上に多くの方に観覧頂き、運営にあたった事務局一同、安堵と喜びを感じられて笑顔だった。



挨拶をされる風岡会長

今展も開幕日の開場式と飲食を伴う祝賀会は残念ながら中止となったが、授賞式は万全の感染対策の上、名鉄グランドホテルにて無事に執り行う事ができた。司会は安藤餘香、大竹翠葉の両先生。安藤清舟副会長の開会の言葉、風岡五城会長、中日新聞社事業局文化事業部部长・寺尾晶子様、木村大澤理事長の挨拶に続き授賞に移った。前回見ることができなかった受賞者の晴れやかな姿が眩しい。受賞者の出席は六十六名。表彰後、大賞受賞・吉岡松龍氏が謝辞を読み上げ、久野北崖副会長の閉



寺尾晶子様

会の言葉で終了した。そしてまた来年こそはきっと祝賀会も含めた式典にしたいと強く思った。今展で見事入選・入賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。

会期中土曜日、厳しい状況下での大村愛知県知事・名誉会長のご来場に歓声が上がっていた。

### 計 報

副会長の久野北崖先生が、七月十七日にお亡くなりになりました。授賞式でお言葉もあったのに信じられない思い。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(追悼の記事は次号に掲載いたします。)

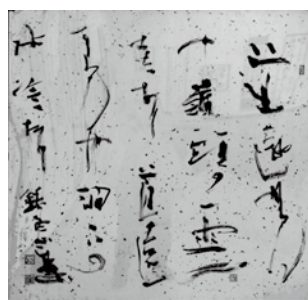


第68回 東海書道藝術院展作品抄録

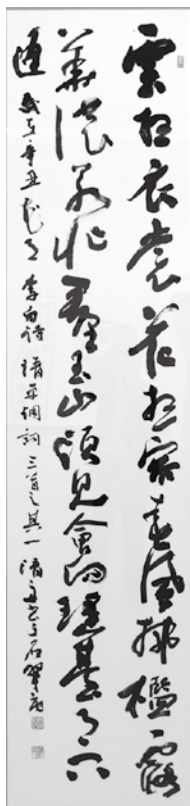
愛知県知事・名誉会長 大村秀章



会長 岡五城



常任参事 岩田冬崖



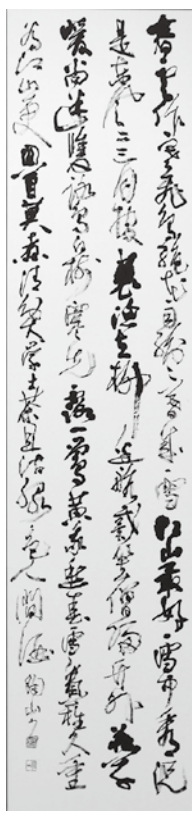
副会長 安藤清舟



副会長 故久野北崖



常任参事 水谷紅楓



常任参事 松浦白碩



常任参事 西尾邑城



理事長 木村大澤



# 〈上位受賞の作品〉

## 会員の部

何處邊書法殊仰  
 性通融筆力醜顏  
 技極意憑探久負  
 收寄逐名人想其材  
 自疑何難也

会員の部 準大賞 中根 冬泉

嗟君此別意何如  
 衡陽歸屐幾封書  
 古木疎聖代即今  
 露暫時分手莫躊躇

会員の部 知事賞 稻熊 美沙

月如日映幸才流越  
 淺巖聲多屋中  
 昔年你若儀者  
 時去外柱空樓  
 意未窮回鏡  
 於智成度  
 正法待時  
 美沙

会員の部 総領事賞 楠 良平

萬河遠望白雲間  
 柳 其之小堂  
 望言直送場  
 今日暫回  
 望言直送場  
 今日暫回  
 望言直送場  
 今日暫回

会員の部 中日賞 佐藤 江月

別館芳苑之花東  
 周對南山雨道  
 去園既醉心  
 和樂共識皇恩  
 造化同

会員の部 東書藝賞 河野 正子

Handwritten calligraphy in vertical columns, likely a continuation of the previous piece or a separate work.

## 准会員の部

崇復知者之初  
 慎勿至疑  
 人能立得  
 世經事  
 正美宗  
 老到者  
 書法

准会員の部 県教委賞 沖賀 青陽

春風最窮窈  
 幽健水鳴分  
 幽鳥啼把酒  
 坐芳草亦有  
 佳人攜

准会員の部 市教委賞 蒲野 綾扇

吾相初當  
 映清  
 如音三顧  
 頻頻  
 祭天不汗

准会員の部 中日賞 山本 楓子

故人不可見  
 鳩鳴村邊  
 故人看新  
 學臨臨  
 急不柳  
 惆悵  
 遠行  
 容錄  
 嘉然  
 詩地  
 子

准会員の部 中日賞 松浦 白沙

西山  
 風塵  
 時極  
 自不  
 信人  
 弟自  
 弟自  
 弟自  
 弟自

准会員の部 東書藝賞 川口 志満子

Handwritten calligraphy in vertical columns, likely a continuation of the previous piece or a separate work.

東書藝幹部による

# 第六十八回展 私の選んだこの作品

会長以下、幹部の八名の先生方に、賞の対象とはならない院人（常任理事以上の役員を除く）の中から、ご自分の社中以外でこれほど思う秀作を八点選んでいただいた。その方々の氏名と作品写真、内二作品の講評を紹介します。（敬称略）

## 風岡五城会長

### ① 名古屋雅翠

隷書と行書が混然一体となった独自の書きぶりでなごむ。一字一字の造形にも工夫を見せて楽しい。今後どのように進化していくか注目したい。

### ② 佐野 小徑

師の書風をベースに新たな展開を見せ、爽やかな清新の気をみなぎらせている。行の流れと余白の美しさが印象的だ。

### ③ 井分 潭風

### ④ 小島 芳泉

### ⑤ 竹田 清章

### ⑥ 賀田野春汀

### ⑦ 梶 蘇山

### ⑧ 野口 桂風

## 安藤清舟副会長

### ① 宮田 杏花

素直な筆捌きで字間・行間程よく取り脈絡よく悠々と書き上げている。

### ② 吉川 馨泉

行筆作品の多い中で多字数の

楷書作品。呼吸乱れず紙面を圧した作品からの努力の跡が窺える力作。

### ③ 横井 青蓮

### ④ 水谷 紫舟

### ⑤ 小島 芳泉

### ⑥ 鎌田 岳風

### ⑦ 伊藤 春草

### ⑧ 伊藤 一楓

## 久野北崖副会長

### ① 吉戸 清華

### ② 千田 嘉穂

### ③ 倉知 一世

### ④ 伊藤 恵翠

### ⑤ 伊藤 緑香

### ⑥ 納堂 玲泉

### ⑦ 鳥居 雅舟

### ⑧ 岩井 玲翠

## 水谷紅楓常任参事

### ① 畑中 花影

### ② 鎌田 岳風

### ③ 小島 芳泉

### ④ 北原 竹堂

- ⑤ 竹田 清章
- ⑥ 清水 玲飛
- ⑦ 堀田 清苑
- ⑧ 吉川 馨泉

## 尾関陶山常任参事

① 長谷川雅江  
構成に胸うたれました。力強いたて線、終筆のすごさに感動しました。

### ② 久保 幸耀

鋭い線でコンパクトに書いてあり、余白の美しさを出して気持ちのよい作品です。

### ③ 山本 美峰

### ④ 佐野 小徑

### ⑤ 内海 清秋

### ⑥ 下村 香遥

### ⑦ 伊藤 一楓

### ⑧ 富坂 竹華

## 松浦白碩常任参事

### ① 伊藤 緑穂

風格があつて熟練した線は躍動感もあり文字の大小の章法が素晴らしい。

### ② 加藤 紫香

行書の辨法帖を五行の多字数でまとめられ、骨力や空間がとても良く安定した作。

### ③ 竹田 清章

### ④ 加藤 美園

### ⑤ 清水 玲飛

### ⑥ 宮田 杏花

### ⑦ 服部 草心

### ⑧ 山本 美峰

## 岩田冬崖常任参事

### ① 伊藤 瑤綵

緻密な線条は岩にぶつかり飛び散る縦横無尽な波紋、才筆

ぶりを感じ運筆の妙に感嘆。紙面を生かした白と黒のコントラストは作者の思想を如実に表わしており更なる精進に期待。

### ② 井上 清道

③ 澤 麗水

### ④ 長谷川柳江

### ⑤ 伊藤美どり

### ⑥ 村瀬 月花

### ⑦ 西山 清虹

### ⑧ 澤田 花儼

## 木村大澤理事長

### ① 佐野 小徑

作品全体から滲み出る抜群の品格と安定感から、作者の力量が一目瞭然。線の持つ勢いと潤滑は、自然な変化と流動美を生み、暖かさや安らぎをも髣髴とさせる。観者の心を揺さぶる入魂の作とみる。

### ② 吉戸 清華

かなりの多字数作品でありながら、絶妙な変化の中に、余裕と悠然さを表出する。字々の懐深く、ゆつたりと点画が構成されており窮屈さが無い。飄逸と流れる抑揚の効いた線が心地よいハーモニーを奏でて、実に魅力的な作品である。

### ③ 横井 青蓮

### ④ 小島 芳泉

### ⑤ 山本 美峰

### ⑥ 宮田 杏花

### ⑦ 下村 香遥

### ⑧ 賀田野春汀

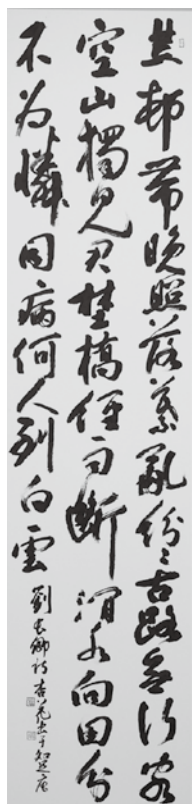
(5)



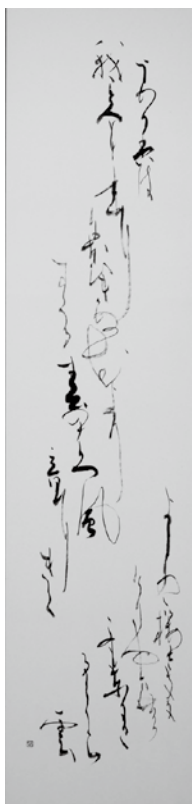
安藤・木村選 横井青蓮



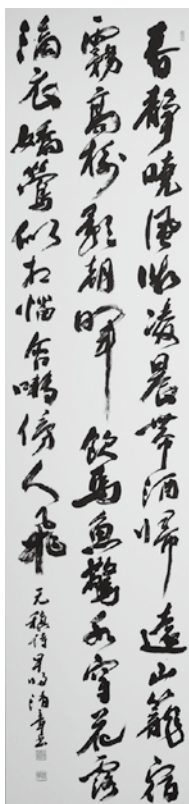
久野選 倉知一世



松浦・安藤・木村選 宮田杏花



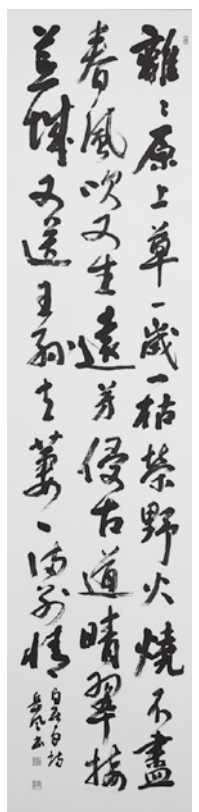
松浦・木村・尾関選 山本美峰



風岡・水谷・松浦選 竹田清章



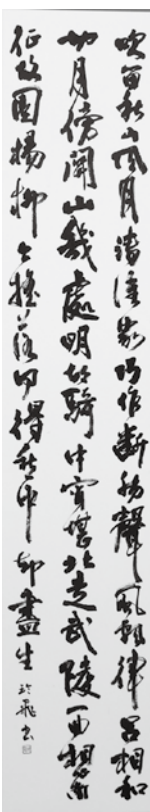
風岡・木村・安藤・水谷選 小島芳泉



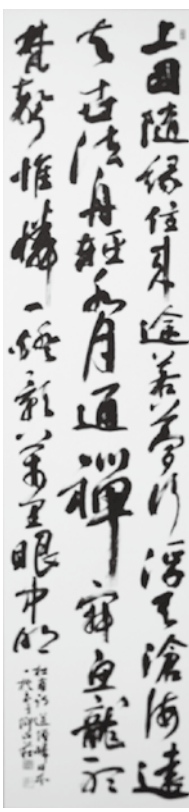
水谷・安藤選 鎌田岳風



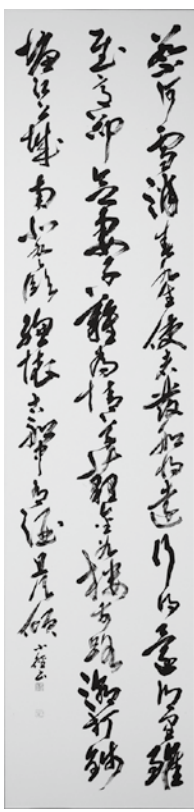
水谷・安藤選 吉川馨泉



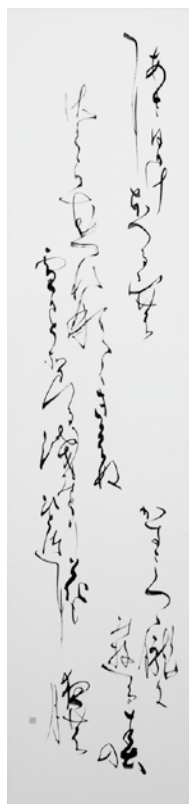
水谷・松浦選 清水玲飛



安藤・尾関選 伊藤一楓



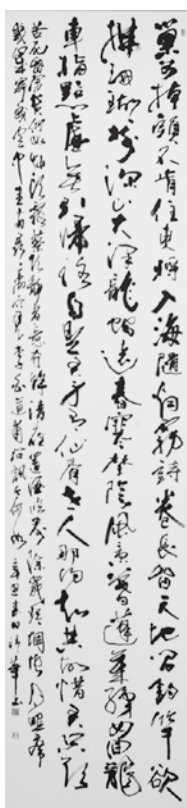
風岡・木村・尾関選 佐野小徑



尾関・木村選 下村香遥



風岡・木村選 賀田野春汀



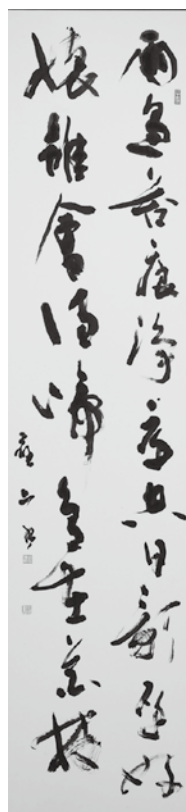
久野・木村選 吉戸清華



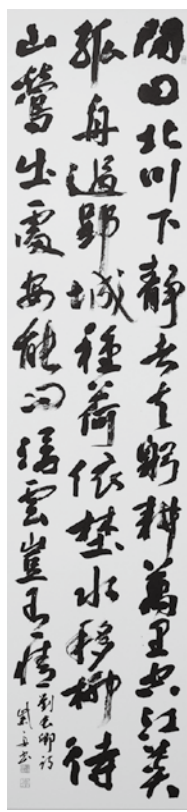
風岡選 名古屋雅翠



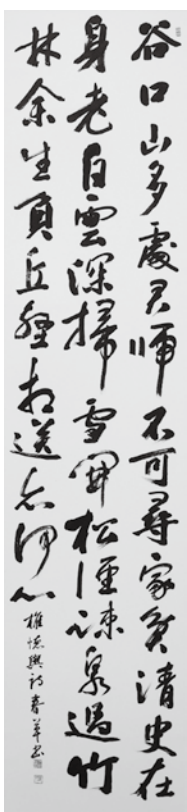
風岡選 野口桂風



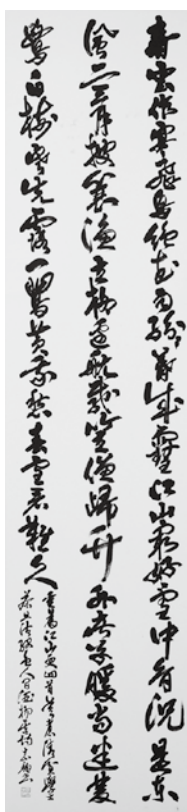
風岡選 梶蘇山



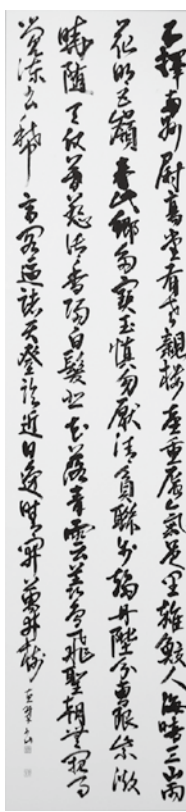
安藤選 水谷紫舟



安藤選 伊藤春草



久野選 千田嘉穂



久野選 伊藤惠翠

重叶梧桐秋意黄珠簾不捲夜  
來霜重似龍玉枕雙靛色卧聽  
菊宮清漏長

王昌齡詩長安秋詞三首之一 花散女

水谷選 烟中花影

素川於中過出山東峰遠近以河申遠意城關重秋聲萬竹竹寒  
色弄陵松聲名歸典嘆清玉霜前露濃花宮仙苑遠月鏡  
高懸鐘漏拂在動霜雪暮鳥落葉依中下霜髮清輝角像已  
入雲中靜 琳堂仍隨林鳥推始覺清風無任名彩心地欲傷仍

久野選 岩井玲翠

庚子九月常與古詩常者數步屬昭歸外思愛力  
因顧無四平壤新出產障今求採探勝藉地也私取此  
其間如季其筆劍時青障千何如刺日故存和也

久野選 鳥居雅舟

大夜鄰女月閣中只獨為愁  
憐災女解後必安否新金髮照清輝玉  
臂空何一曰倚空憶雙照後存乳

久野選 納堂玲泉

地僻人留對山深多遠誰  
清溪白石齒暖日色麻草  
綠映高松新秋送意下  
不林多見鷄犬直是極仙家

久野選 伊藤綠香

三春羣卉盛

千華書

尾関選 富板竹華

子房未坼破不為家滄海得壯立  
秦博沙軟雖不成天管震動匿遊下  
邳豈木曾無黃石公歎息此人古  
蕭條徐泗空

漢書

尾関選 内海清秋

不知香積寺數里入  
雲峰古木無人逐深

小相靈鐘泉聲咽空山色冷青松薄暮空潭山公禪剎華嚴寺埋雲

尾関選 久保幸耀

獨

尾関選 長谷川雅江

豈山不心車東月秋草  
絲來西山積思谷日  
歲余光克宙

及田高山新十秋月野寺與花自和思公師傳  
宗元女而宗元學祖龍門竹堂書

水谷選 北原竹堂

日暮滄江既停，旋向去風散。照也子園，堂邊漢王宮，美肌竹園。山  
深山出功，散點青輝，斷地陰英。以道古木，生雲際，歸帆  
出霧中。川遠去，無限空思，付何窮。再登石，館遠生黃。金  
念丘。陸畫，香木路。王安在，我情。園情已矣，驅馬復歸來。

松浦選 伊藤 綠穂

劉孝標愛見柳，口雖所服，言氣造梨，附於大字卷中。襟，世以遺芝，怡運在後。而  
云，一帖不知，其為逸少也。上雖唐在，家而此，上顧何儀，著長安，李氏可收，逸少，竹真  
觀，可收，第作者，名已非逸少，其蹟，發可知矣。猶不知，徐體，在訪者，何耳。予抱病，端  
憂，養目，父藝，思而，清，上，粗，不，真，仍，因，暇，遊，卷，未，以，始，好，事，同，志，百，年，之，後，必，有，報，予，前，實  
我者，金，吾，忠，貴，願，獨，姓，古，人，筆，札，每，餘，一，視，展，一，和，不，知，其，時，雷，之，在，傍。

松浦選 加藤 紫香

見說登堂，路崎嶇，不易行。山從人而起，  
雲傍馬頭生。芳樹籠秦棧，春深逸蜀  
城。年沈應已定，不必問君平。

松浦選 加藤 美園

名氣下國，相澤長，得玉翠，翠看解  
雲子，月風，無浪沈，意是荷，願平

松浦選 服部 草心

林下，茂岸，江音，色香，動江新  
如，岸，月，空，光，色，上，春，心，向，江，深  
重，心，空，映，深，河

岩田選 伊藤 瑶絢

云月存無情  
不亂盡白  
叮嚀愛別  
上長遊丹  
神從起靈  
仙已燕雷  
會十窮新  
離散清來  
遠亮清齊  
何大木嶸  
日仍索東  
翻氣地始  
塵蓬強頭  
綠山碧紫  
火變丁買藏滋  
拔石花碧  
強乳糞船  
釣漁寒尾  
論取登陸  
食恐誤  
使沈潔  
額真繁  
紅恩文  
丹臨路  
神客疑

岩田選 井上 清道

不亂盡白  
叮嚀愛別  
上長遊丹  
神從起靈  
仙已燕雷  
會十窮新  
離散清來  
遠亮清齊  
何大木嶸  
日仍索東  
翻氣地始  
塵蓬強頭  
綠山碧紫  
火變丁買藏滋  
拔石花碧  
強乳糞船  
釣漁寒尾  
論取登陸  
食恐誤  
使沈潔  
額真繁  
紅恩文  
丹臨路  
神客疑

岩田選 澤 麗水

一  
上  
下  
左  
右  
中  
外  
東  
西  
南  
北  
東  
南  
西  
北

岩田選 伊藤 美どり

風  
雲  
月  
存  
無  
情

岩田選 村瀨 月花

雲月存無情  
情  
情

風岡選 井分 漂風

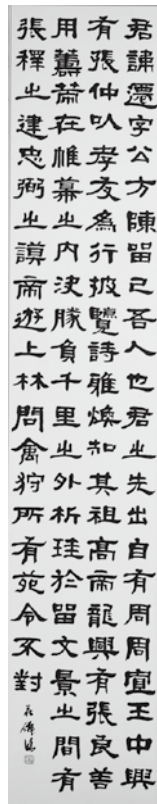
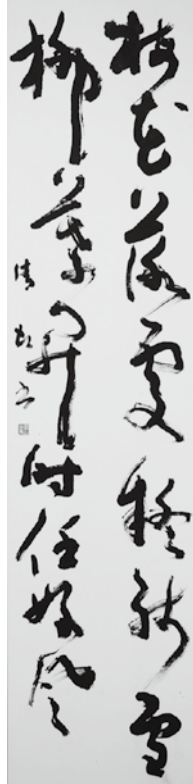
衆入酸在  
樂通愜里  
樂止三日  
不朝心也  
六

水谷選 堀田 清苑

江  
柳  
長  
谷  
川  
無  
以  
推  
注  
也  
不  
可  
以  
也  
不  
可  
以  
也  
不  
可  
以  
也  
不  
可  
以  
也

岩田選 長谷川 柳江





### 第六十八回東書藝展 受賞者に聞く

今年も栄えある賞に輝いた皆さんの中から、会員、準会員の部の上位入賞者の方々十一名にアンケートに答えていただいた。設問内容は次のとおり。またその受賞作品は3頁に掲載しました。

- (1) 現在学んでいる古典は。
- (2) その古典のどこに魅力を感じていますか。
- (3) 今回の出品作で、制作上特に大切にされたことは。
- (4) (受賞を機に) これから挑戦してみたいことは。
- (5) ご自身にとって「書道」とは。
- (6) 受賞の感想と今後の抱負。

### ◆会員の部 準大賞



中根冬泉

- (6) この度は栄えある賞を頂きありがとうございます。日頃よりご指導下さる宏道書会の先生方、又、良き先輩、書友の皆さまに支えられての受賞です。今後、さらに高みを目指し、一筆入心、心を込めて書と向き合い、精進してまいります。更なるご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。
- (1) 趙之謙。
- (2) 逆入平出の筆法と独特の書風。
- (3) 墨量と行間。
- (4) まだまだ学んだ古典が少ないので今後も色々なものに挑戦していきたいです。
- (5) 自己表現でもあり、自分自身を俯瞰するもの。また他のことを考えずに没頭できるもの。
- (6) この度は思いもよらず大きな賞を頂き、ありがとうございます。日頃より熱心にご指導下さる木村大澤先生、宏道書会の先生方のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。今後も気負わず楽しみながら自分らしく書に向き合っていきたいと思っております。

### ◆会員の部 大賞



吉岡松龍

- (9) (1) 張猛龍碑。
- (2) 力強い楷書と起筆の難しい所。
- (3) 墨の潤渇のバランス、文字の

強弱。とくに力強さを意識しました。

- (4) さまざまな書体の楷書に挑戦し、いろいろな筆法を習得したいです。
- (5) 自己と向き合う芸術。他者と比べるのではなく、過去の自分と比べ、語り合うことのできる芸術だと思っています。



謝辞を読む大賞受賞者 吉岡松龍氏

引き続き変わらぬご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

◆会員の部 知事賞



稲熊美沙

- (1) 枯蘭復花圖跋。
- (2) 多彩な筆配びと力強い線。
- (3) 学ばせて頂いている王鐸の書への尊敬の意を込めつつ、自身の作品としての緩急のリズムを作り出すことです。

- (4) より多くの古典を学び、線の美しさを表現できる創作作品。
- (5) 自身と向き合い理解を深める時間です。
- (6) この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。



大村愛知県知事と風岡会長

この賞を頂いたのも壁谷桔華先生を始め諸先生方の激励のおかげでございます。この場を借りてお礼申し上げます。幼い頃から筆を取り、現在まで続けてこられたのは心強い仲間達のお蔭でもありません。今後も互いに研鑽を積み高め合える書道を人生の糧とし、励んでまいります。未熟な私ですが引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。

◆会員の部 総領事賞



楠 良平

- (1) 蘭亭序。
- (2) 運筆。字形。
- (3) 全体のバランス、流れ。

- (4) 知識量が少ないので、種類を問わず、色々なものに挑戦していきます。
- (5) 集中して心を落ち着けられる数少ない時間です。
- (6) この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。日頃よりご指導下さる尾関陶山先生に心より御礼申し上げます。

◆会員の部 中日賞



佐藤江月

これからも地道に成長していく様、精進していきますので、諸先生方、今後共にご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

- (1) 趙孟頫集 伊都内親王願文。
- (2) 多様な運筆・字形。
- (3) 全体の流れ、墨の潤濁、行間への働きかけ。

- (4) 色々な古典を学び、多様な筆法を身につけ、作品制作に活かしていきたいです。
- (5) 無心になり、取り組むことができるかけがえのないもの。
- (6) この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。これも日頃より熱心にご指導して下さい。寺尾如楓先生のお陰だと、心より感謝申し上げます。作品制作にあたり、墨と紙のみで表現する「書の奥深さ」に悩みつつ、自分の未熟さを痛感する日々ですが、これからも楽しみながらも、

◆会員の部 東書藝賞



河野正子

より一層精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

- (1) 高野切一種 蘭亭序。
- (2) 運筆 字形 余白。
- (3) 墨の濃淡や色味の変化、余白の美しさ。無心になること。
- (4) 筆法のマスターと作品創作。
- (5) 『書道』とは人生。

- (6) 身に余る賞を頂き誠に有難うございます。これも日頃より熱心にご指導下さる、伊藤春魁先生のお力添えによるものです。

と感謝しお礼申し上げます。  
梓会の諸先生、今後は更なる  
上達を目指し一層精進して参  
りますので、変わらぬご指導  
宜しくお願い申し上げます。

◆準会員の部 市長賞



杉野露光

- (1) 呉昌碩、米芾。
- (2) 流れるようなしなかも力強い運筆。
- (3) 墨量、文字の大小。
- (4) 呉昌碩は十年、米芾を学んで三年間、さらに臨書を基に少しでも自分で納得できる作品を書きたいと思っています。
- (5) 字を書くことが好きで始めた書道ですが、習う程に奥深く難しさを痛感しています。
- (6) 思いもかけない受賞で驚いています。教室の中でも落ちこぼれている私ですが、いつも温かくご指導くださる山本晴城先生のお陰と深く感謝しております。心よりお礼申し上げます。今後この賞を励みに日々努力していきます。

◆準会員の部 県教委賞



沖賀青陽

- (1) 趙之謙行書。
- (2) 運筆、線質。
- (3) 文字の配置、墨量。
- (4) 基本の学びを大切にしながら、もっと大きな作品に挑戦したいです。
- (5) 私を造り上げる大きな要素の一つです。
- (6) この度は、身に余る賞をいただき誠にありがとうございます。



会場風景

す。ご指導くださった先生方に心より感謝申し上げます。  
環境が変わりながらも書を持  
けられているのは、ひとえに  
温かいご指導ご協力のおかげ  
です。これからも初心を忘れ  
ず、気を引き締めて精進して  
参ります。

◆準会員の部 市教委賞



蒲野綾扇

- (1) 王鐸。
- (2) 自由な筆致の中に観られる底知れない力強さと圧倒的な美しさです。
- (3) 一文字一文字の姿形と紙面全体の行の流れです。
- (4) 古典に準拠しつつ、自分の字と誇れる字体で作品を仕上げ、紙面で自分を表現することです。
- (5) 癒しです。乱れた心を整えるために必要不可欠なものです。
- (6) 今回の受賞を大変嬉しく思います。コロナ禍での作品錬成は苦しい局面が多かったように感じます。その中でも、よ

り一段深く自分の書と向き  
合って作品を完成できたのは、  
師匠の激励と家族の大きな支  
えによるものです。ここに心  
から感謝いたします。今後も  
古典臨書に学び、流れるよう  
な行草作品を仕上げていき  
たいと思います。

◆準会員の部 中日賞



山本楓子

- (1) 米芾。
- (2) 文字のバランス・筆遣い。
- (3) 墨の潤濁と線質を意識し、全体的にすっきりとした印象であるものの、迫力のある作品になるよう考えて制作しました。
- (4) まだ学んだ古典が少ないので、これから色々な書と出合い作品の幅を広げていきたいです。
- (5) 筆を動かし作品と向き合う時間は日常の一部で、掛替えのない存在です。
- (6) この度は身に余る賞を頂きありがとうございます。これもご指導下さる大竹翠葉先生、宏道書会の先生方のお陰と感

謝申し上げます。社会人になつても、書と向き合う時間を大切にし、少しでも成長できるように稽古に励みたいと思います。

◆準会員の部 中日賞



松浦白沙

- (1) 大唐三蔵聖教序碑。
- (2) 全体の調和。
- (3) 墨量、行間、全体の流れ。
- (4) 自分自身を受け入れる。「静」と「動」のバランスを取れるもの。
- (5) 篆書、隸書、甲骨文字、まだ学んだ事のない書体の線質を楽しんでみたいです。
- (6) この度は素晴らしい賞を頂きありがとうございます。思いもよらず喜びとともに大変恐縮しております。日頃より温かく見守って下さる松浦白碩先生はじめ、諸先生のおかげと心より感謝しております。今後この賞を励みに精進して参りたいと思います。

# 21「今日の書」代表作家展

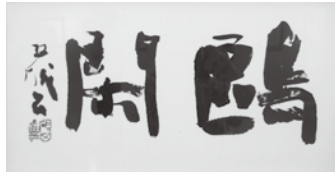
令和三年七月十七日〜二十三日

七月十三日〜十八日、名古屋市民ギャラリー栄で開催。中部圏書芸作家協議会を構成する四団体の代表作家の作品四十六点が集結した。各会派を混在させ

ての展示が、より個性を感じさせる。東書藝からは十六名が出品。主な幹部作は、風岡五城「鷗閑」温雅で包み込まれるような線條が魅力。安藤清舟「畫

岩田冬崖

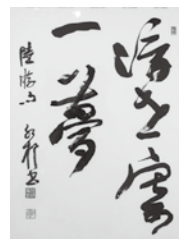
水谷紅楓



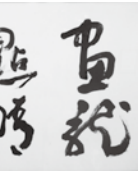
風岡五城



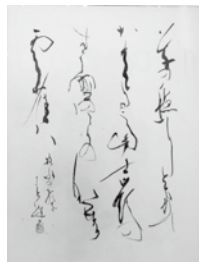
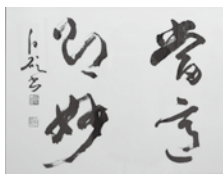
松浦白碩



伊藤春魁



安藤清舟



西尾邑城



尾関陶山



木村大澤



安藤餘香



富永奇洞



山本晴城

龍點晴」筆躍動し、落款の収まりも美しい。岩田冬崖「つばやき」表現・文意とも、まさしく書は人なりの作。尾関陶山「繞屋樹扶疏」の字に焦点を合わせた大胆な構成が力強い。西尾邑城「断夢・別風対句」いつもながらの造形・墨色の美しさに感服。松浦白碩「當意即妙」閑雅な雰囲気に取り込まれる。水谷紅楓「陸游句・浮世寄一夢」しみじみいなあの思い。木村大澤「錐處囊中」大きな構えの造形は品格も高く、背筋が伸びる。実力作家揃いの東書藝、面目躍如の展覧だった。(敬称略)

定期総会 総会議案承認

令和三年度東書藝総会は、未だに収まらないコロナ禍で昨年続き再び中止となった。木村大澤理事長より報告です。

理事長 木村大澤

(13) 新型コロナウイルスの影響により、令和三年六月二十日に予定されていた令和三年度定期総会は中止とさせていただきます。会員の皆様には、「行事予定」「行事報告」「予算」「人事」等につきまして資料を郵送、ご覧いただき、その上で委任状をご返送いただく形にさせていただきますました。その結果は、全会員総数七〇四人、委任状数五四三人で、お認めいただいた事にさせていただきます。お手数をおかけしました。また、数人の方より貴重なご意見を賜りました。役員会にかけたうえで、今後の計画等に反映させていただきます。有り難うございました。来年は無事開催できますことを祈念し、今後ともご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

書展訪問・社中の歩み

◇第62回新道書道会展

新道書道会（代 表・豆子 柴甲先生）

主催の62回展は四月三十日（五月二日、四日）市市文化会館にて開催された。故・豆子甲水之先生の遺作が見守る中、複数出品を含む計一二八点の展示は実に壮観で、観る者を強く引きつける。昨年のコロナ禍での中止が、寧ろ大きなエネルギーの蓄積・解放となり、素晴らしい展覧と感じた。




◇第42回宏道書会選抜展

東書藝 副理事 長・山本 晴城先生


率いる42回選抜展は、五月十一日（十六日、栄サンシ）ティギヤラリーでの開催。幹部と選抜された実力者のバラエティーに富んだ作品三十点が壁面に品よく並ぶ。生活空間にマッチするサイズ・装丁で、飾っておきたいなと思わせる魅力的な快作が多数。



◇第12回幽石書道会展

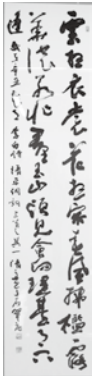
熊谷真川 先生代表・幽石書道会

展は五月七日（十一日、飯田創造館）で開催。会員二十六名、講師として加山幽石先生、榊田白蓮先生が二点ずつを出品。それぞれの書美を求めて丁寧力強く、多彩な表現に挑戦した作品が並ぶ。

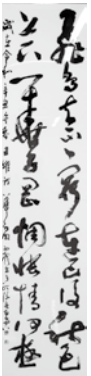


例年より二ヶ月遅れの開催となったが、コロナ禍の中で二百

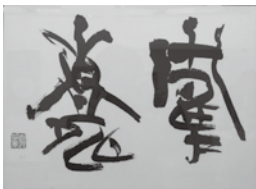
余名と多くの来場者を得て幽石先生も嬉しそうでした。今後も益々のご発展を祈念致します。



安藤清舟



水谷紅楓



山本晴城



風岡五城

### ◇2021八千代書道展

書芸八千代会（梶蘇山代表）主催、2021八千代書道展が六月十九日、



二十日の両日、くわなメディアライブ多目的ホールで開催された。梶代表「麒麟が来る」をはじめ二点出品の幹部作と合わせて計百四点の展覧。訪れた日曜は悪天候だったが、会場はコロナも吹き飛ばさんばかりの盛況だった。あちこちで作品評に花が咲き、会員の皆さんの充実したお顔が輝いていた。更なる充実を大いに期待。



### ◇'21心象展

書作研究社 日社（本会常任参事・岩田冬崖代表）主催、'21心象展が七月十三日



（十五日、愛知県美術館ギャラリー）で開催された。冬崖先生の隷書風で立体感に富んだ線條が実に味わい深い「禅林語句」、鈴木紫舟先生の造形が楽しい古語「歩行」（歩み行く）はじめ、個性的な作計五十七点が壁面を飾る。冬崖先生の「書作品の最後はやはり人間性」との言葉が心に残った。



岩田冬崖代表

鈴木紫舟

尚、第37回清和会書展、第46回宏道書展の紹介は次号に掲載予定です。

### 今後の予定

- ◇第55回記念碩山書院一門展  
会期 9月11日(土)～12日(日)  
会場 蒲郡市民会館東ホール  
主催 碩山書院（大竹翠葉）  
全振興会
- ◇第21回心書会展  
会期 9月11日(土)～12日(日)  
会場 龜山市文化会館  
中央コミュニティセンター
- 主催 心書会（安藤清舟）
- ◇第24回東書藝選抜小品展  
会期 9月14日(火)～19日(日)  
会場 栄サンシティギャラリー  
主催 東海書道藝術院
- ◇第63回游心書展  
会期 9月14日(火)～20日(月)  
会場 愛知県美術館ギャラリー  
主催 游心書道会（松浦白碩）
- ◇第40回記念飯田書人会展  
会期 9月17日(金)14時～21日(火)  
会場 飯田創造館  
主催 飯田書人会（加山幽石）
- ◇梶田稲州遺作展  
併催第9回稻香印社展  
会期 10月8日(金)～10日(日)

会場 名古屋市政資料館  
第3・4・5一般展示室  
主催 稻香印社（横井青蓮）

◇第44回公募梓会書展  
会期 10月12日(火)～17日(日)  
会場 愛知県美術館ギャラリー  
主催 書道研究梓会  
（勝川香艸・伊藤春魁）

◇第38回花墨会展  
会期 11月20日(土)～21日(日)  
会場 三重県菟野町図書館2階展示室  
主宰 松岡麗泉

◇第16回攻玉書会展  
会期 12月25日(土)～26日(日)  
会場 豊田市民文化会館  
A・B展示室  
主催 攻玉書会親交会  
（羽根田菖橋）

### 編集後記

◇パンデミック、異常気象と、生存をかけた持久戦の夏が続く。規制と忍耐一色だが、心の宇宙は広く自由。力を蓄え、感性を磨き、何よりご壮健で。

令和三年八月 第一四三号  
発行 東海書道藝術院  
編集 加藤松亭  
堀江龍舟